



Press Release

2023年10月4日
タレンツ・トーキョー実行委員会

カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭でも注目されるアジアの映画人を多数輩出
映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2023」参加者・メイン講師決定
世界で活躍が期待される企画を選抜する「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」も発表

タレンツ・トーキョー実行委員会は、映像分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能(=Talents、タレンツ)」を育成することを目的とした「タレンツ・トーキョー」を、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京との共催で2010年から毎年秋に実施しています。アジアの若手映画作家やプロデューサーを東京に招き、6日間にわたるワークショップを通じて、世界で活躍していくためのノウハウを学ぶ人材育成事業です。また、本事業は「ベルリン国際映画祭」の一環として開催されている「ベルリナーレ・タレンツ」の、海外展開における唯一のアジア版として実施するもので、カンヌやヴェネツィアなどの国際映画祭で受賞する修了生も多く、世界的に活躍する映画人を多数輩出しています。

14回目となる今回は、「In this world where nothing is as it seems」というテーマのもと、2023年11月20日(月)～11月25日(土)の日程で行います。また、一般公開の対象となる公開プレゼンテーションも、11月23日(木・祝)に行います(取材及び観覧は要事前登録、詳細は後日お知らせします)。

この度、選考の結果、17名の参加者(タレンツ)が決定しました。またメイン講師には、脚本家・映画監督のモーリー・スリヤ氏、プロデューサーのピアンカ・バルブエナ氏、ワールド・セールスのポーリン・ブーシェニー氏、ベルリン国際映画祭からフロリアン・ウェグホルン氏の世界で活躍する4名のプロフェッショナルを迎えます。

さらに、本事業修了生を対象とし、今後世界での活躍が期待される企画を選抜しサポートする「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」の対象企画も決定しましたので、あわせてお知らせします。

※詳細については、別紙1～3をご参照ください。

(*本事業は、平成22年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌23年度から25年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、26年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)

<開催概要>

名称：タレンツ・トーキョー2023 (Talents Tokyo 2023)

会期：2023年11月20日(月)～11月25日(土)

※11月23日(木・祝)「公開プレゼンテーション」取材及び観覧の事前登録に関する詳細は後日発表

会場：有楽町朝日ホールほか (東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F)

公式ウェブサイト：<https://talents-tokyo.jp>

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会

提携：ベルリン国際映画祭(ベルリナーレ・タレンツ)

協力：ゲーテ・インスティトゥート/東京ドイツ文化センター

<本事業、掲載に関するお問い合わせ>

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局 担当：林
TEL: 03- 6258-0333 E-mail: talents@talents-tokyo.jp



(左から、モーリー・スリヤ氏、ビアンカ・バルブエナ氏、ポーリーン・ブーシェニー氏、フロリアン・ウェグホルン氏)

モーリー・スリヤ (映画監督・脚本家)

2008年のデビュー作『fiksi.』以来、国内外で数々の賞を受賞。作品は、サンダンス映画祭、トロント国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭など、世界中の映画祭で上映されている。最新作『マルリナの明日』は、2017年カンヌ国際映画祭 監督週間でプレミア上映され、アメリカ、カナダを含む14カ国で劇場公開された。また同作は、第91回アカデミー賞 外国語映画賞のインドネシア代表作品でもある。

現在、ジェシカ・アルバ主演の『Trigger Warning』(Netflix US 配給)と、インドネシアの著名作家であるモフタル・ルビスの小説『A Road with No End』を映画化した『This City is a Battlefield』の2本の監督作をポストプロダクション中。

ビアンカ・バルブエナ (プロデューサー)

フィリピンの制作会社 Anima (旧 Globe Studios) のマネージング・ディレクター。サンダンス映画祭、トロント国際映画祭でそれぞれ受賞した『Lionel Will Never Die』(2022) やエミー賞ノミネート、フィリピン アカデミー賞出品作『The Missing 8』(2021) を製作。Epicmedia Production の元 CEO で、30本以上の長編、短編、シリーズを製作。主な作品として、ベネチア映画祭 Lion of the Future 賞受賞作『Engkwentro』(2009)、ベルリン国際映画祭 銀熊賞受賞作『痛ましき謎への子守唄』(2016)、カンヌ国際映画祭 批評家週間出品『The Manila Lover』(2019)、フィリピンで人気の『運命というもの』(2014)、『Patay Na Si Hesus』(2016)、『女と銃』(2019)、『ファン・ガール』(2020) が Netflix で配信されている(フィリピン限定)。

アジア・フィルム・コミッション・ネットワークのプロデューサー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、映画界への多大な貢献を称えられ、アジア・パシフィック・スクリーン・アワード(FIAPF 賞)を最年少で受賞。シドニー、フリブール、シーショーツ、バンコク ASEAN、ダーバンなどの映画祭で審査員を務める。また、ロカルノ・オープン・ドアーズ、タレント・トーキョー、ベルリナーレ・タレント・ショート・ステーションでも後進の指導にあたっている。

ポーリーン・ブーシェニー（ワールド・セールス）

パリのソルボンヌ大学（D2A）を卒業後、SOFICA（フランスの民間投資ファンド）と COFILOISIRS（銀行）で映画資金調達の実験を積む。2017 年にビジネス担当として CHARADES に入社し、2023 年からは CHARADES の製作活動に対する助成金である CHARADES PRODUCTIONS の共同製作を管理。

CHARADES は、多くのジャンル、監督主導の作品を制作している。今後予定されているプロジェクトは、ヨーロッパとの共同製作作品からエクイティ・ファイナンスの支援を受けた作品まで、また商業アニメーションからジャンルもの、フレンチコメディまで、経験豊富な監督から新人監督まで、多岐にわたる。CHARADES が担当した最近の作品は、カンヌ国際映画祭 ある視点部門 審査員賞受賞 『Hounds』（2023）、『Along Came Love』（2023）がカンヌでプレミア上映、カンヌの ACID 部門で上映された 『リンダはチキンがたべたい！』（2023）は、アヌシー国際アニメーション映画祭でクリスタル賞を受賞した。また 『The Goldman Case』は、2023 年に開催されたカンヌ国際映画祭 監督週間部門で、さらにマリオン・コティヤール主演の 『Little Girl Blue』（2023）も同映画祭にて特別上映される。

フロリアン・ウェグホルン（Berlinale Talents）

フロリアン・ウェグホルン（Berlinale Talents）

ベルリン国際映画祭の人材育成プログラム、ベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャー。7 カ国に渡り、1 万人の修了生を誇るタレンツ・インターナショナルのアドバイザーも務める。

1976 年、ドイツ・オルデンブルグ生まれ。ケルン大学で Theatre, Film and Television を学ぶ。2002 年にベルリン国際映画祭のジェネレーション部門に参加。2008-2014 年には同部門の共同ディレクター・キュレーターとして、短編・長編含め 60 作品を毎年上映。2012-2019 年には同映画祭のコンペティション部門の選定委員を勤めた。

ヨーロッパ・フィルム・アカデミーの一員としてベルリン国際映画祭以外の映画祭や、フィルム・ファンド、文化施設に携わる。映画と若者に関する出版物をいくつか執筆・編集している。

© photo: Alexander Janetzko

別紙2 「タレンツ・トーキョー2023」参加者（タレンツ）

監督：

OATES Yinchao（中国）
YUAN Yuan（中国）
ZHANG Yudi（中国）
Rex REN（香港）
M Reza Fahriyansyah（インドネシア）
村山和也（日本）
中西 舞（日本）
SINN Kirin（韓国）
Sai Naw Kham（ミャンマー）
Treb Monteras II（フィリピン）
LAM Li Shuen（シンガポール）
Steve CHEN（台湾）
Nguyễn HOÀNG ĐIẾP（ベトナム）
VU Nguyen Nam Khue（ベトナム）

プロデューサー：

Lyza Anggraheni（インドネシア）
Angelina Marilyn BOK（シンガポール）
NGUYEN Le Hang（ベトナム）

* 氏名（国名／地域名）

選考委員会には、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター）が参加しました。

一次選考には、深津純子（ライター/東京フィルメックス・理事）、市山尚三（タレンツ・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長）、林未侑（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）が参加しました。

- * タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。
- * 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。
- * 令和5年10月4日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

別紙3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画

a) 企画開発ファンド

SON Heui Song (TT2022、韓国) <Forte>

Maung Sun (TT2022、ミャンマー) <Future Laobans>

Okkar (TT2020、ミャンマー) <Reminiscences>

Martika Ramirez ESCOBAR (TT2016、フィリピン) <Daughters of the Sea>

Charlotte HONG Bee-Her (TT2022、シンガポール) <Tropical Rain, Death-Scented Kiss>

Russell MORTON (TT2021、シンガポール) <Penumbra>

CHANG Chih-Wei (TT2013、台湾) <Be With You>

KUO Ming-Jung (TT2022、台湾) <Daughter's Daughter>

LIM Lungyin (TT2022、台湾) <Malice>

WENG Yu-Tong (TT2020、台湾) <Only Sun Knows>

Anocha SUWICHAKORNPONG (TT2010、タイ) <ASR>

b) インターナショナル・プロモーション・ファンド

Jianjie LIN (TT2015、中国) <Brief History of a Family>

*氏名 (タレント・トーキョー修了年、 国名/地域名) <企画名>

選考委員会には、池田高明 (NHK エンタープライズ)、市山尚三 (タレント・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長)、神谷直希 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター) が参加しました。

一次選考には、市山尚三 (タレント・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長)、神谷直希 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター)、林未侑 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス) が参加しました。

*受賞者名は国名/地域名のアルファベット順で表示しています。

*国名/地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。

*令和5年10月4日時点の情報であり、変更になる可能性があります。